

## 追悼文 名誉会員 蟹沢 成好博士

日本毒性病理学会の名誉会員（横浜市立大学医学部名誉教授）、蟹沢 成好先生におかれましては平成 26 年 3 月 18 日にご逝去（享年 83 歳）されました。

毒性病理学者としての先生の御功績を偲びつつ、ご冥福を心からお祈り申し上げます。



蟹沢先生は、長野県伊那市ご出身の英才で大学進学の名門高校を経て、昭和 31 年に千葉大学医学部を卒業、引き続き千葉大学大学院において病理学を専攻、昭和 36 年 4 月に千葉大学病理学第一講座副手、昭和 37 年に千葉大学腐敗研究所助手、昭和 41 年 5 月に同研究所助教授に就任されました。昭和 41 年 7 月から昭和 43 年 9 月まで米国に留学、ダートマス医科大学およびアルバニー医科大学において実験病理学および毒性病理学の研鑽を積み重ねました。帰国後、昭和 47 年に東京都老人総合研究所基礎病理学部に室長として就任し、太田 邦夫所長の新しい体制のもとで抗菌剤であるニトロフラン化合物の NFN の肺に対する発がん性、かび毒であるオクラトキシン A の肝腎に対する発がん性の他、クララ細胞における 4-ニトロキノリン-1-オキサイド (4-NQO)、NFN およびウレタンの代謝に関する研究を実施され、肺の病態を形態と機能の両面から追求した画期的な仕事として注目されました。昭和 56 年 9 月横浜市立大学医学部病理学第一講座教授に就任され、肺の病理学、特に化学発がんについての研究を大規模に手掛けられました。研究の全般については、将来展望を含めて、横浜市立大学医学部病理学第一講座業績集の中で、「教室に

おける研究の流れ」として判りやすくまとめられていますが、端的に言って、形態と機能の統合が主課題となっているように感じられます。

先生は、通常の実験病理学の他に、横浜市の依頼を受け、公衆衛生学教室との共同研究として、市内の大気汚染の状況を分析化学と実験病理学の立場から調査をするという、環境衛生の向上に直結する研究もされ、その研究成果に基づいて、平成 8 年 9 月に横浜市功労者に推挙されておられます。

蟹沢先生は研究者としてのみならず、病理学の教育者としても多くの業績を残しておられます。横浜市立大学の先生の教室には 10 余名に及ぶ大学院生が呼吸器疾患、化学発がん、マイコトキシン等の研究に従事し、その中には、北村 均先生（前横浜市立大学医学部教授 肺病理学）、伊藤 隆明先生（熊本大学医学部機能病理学教授 肺の発生、内分泌細胞）、小川 毅彦先生（横浜市立大学医学部生命科学科教授 生殖再生医学、配偶子産生制御）、平林 容子先生（国立医薬品食品衛生研究所毒性部 造血幹細胞/造血毒性）を始めとする国際的な研究者が含まれています。横浜市立大学を定年退官されてからも、厚生労働省外郭団体の（財）食品薬品安全性センター秦野研究所において病理学研究者の育成に当たっておられました。

毒性病理学の研究および教育における蟹沢先生の御貢献は極めて大きく、その一つ一つが横浜市立大学病理学教室や（財）食品薬品安全性センターの研究者に受け継がれていくものと信じております。先生から戴いた様々な御教授/御指導に感謝しつつ、ご逝去に心から哀悼の意を表する次第であります。

（公益財団法人 実験動物中央研究所学術顧問 林 裕造）